

要介護度等改善事例公表事業 応募事例（令和3年11月応募分）

サービス種別	事業所名	ページ
認知症対応型通所介護	デイサービスらしく昭和	1
認知症対応型通所介護	デイサービスらしく自由ヶ丘	3

名古屋市要介護度等改善事例公表事業とは

- ・高齢者の生きがい支援
- ・介護サービス事業所の意欲向上
- ・事業所間の情報共有

などを目的として、高齢者の心身状況の改善につながる支援を行った介護サービス事業所の取り組み事例を収集し、NAGOYAかいごネット上で公表することにより周知する事業です。

掲載されている取り組みの具体的内容、その他ご質問については各事業所へお問い合わせください。

名古屋市要介護度等改善事例公表事業

改善・向上したこと

失語症のY様が毎ご利用時、発語がみられるようになり、自宅でも発語が増えた。

事業所	サービス種別	認知症対応型通所介護
	事業所名	デイサービスらしく昭和
	所在地	昭和区戸田町3-10 戸田マンション1A
利用者	65歳未満 ・ 65～70歳 ・ 70歳代 ・ 80歳代 ・ 90歳～	

取り組み

課題（取り組み前の時点）	失語症の影響もあり発語が難しく、コミュニケーションを上手く図れず、思うようなケアができない。		
本人の意向	いつまでも元気にいたい。		
長期目標	現状の日常生活を送る事ができる。	取組期間	R2. 11. 1～
短期目標	話しながら楽しめる事を増やし穏やかに暮らす。	取組期間	R2. 11. 1～
関連する加算の算定状況	特に無し。		

具体的な取り組み事例（期間、頻度、内容、主に担当した職種など）

ご利用開始当初は、机や壁を叩かれる事が多かった為、他のご利用者様への影響を考慮し、少し離れた場所で過ごして頂き、個別ケアをおこなっていた。しかし、他のご利用者様の言動等を気にされ、机などを叩かれる行為が続いた。Y様が興奮気味の際は、気になるご利用者様が視界に入らないような席配置とした。そうする事で一時的に改善はみられたが、根本的な改善には至らなかった。Y様は以前、民生委員をされるなど人付き合い（人助け）が好きな方とのことに着目し、「私の姿気持ちシート／ひもときシート」を使用しケアを見直した。人付き合いが減った事で淋しさや悲しさ等もあると推測し、Y様に対する個別ケアを他のご利用者様を交えておこなうようにした。1～2か月程度経過した頃、仲間意識が芽生えた為か笑顔が多く見られるようになり、他のご利用者様の言動に対してもあまり気にされないようになってきた。Y様の個別ケアに交える他のご利用者様の人数を段階的に1人ずつ増やしていき、徐々に人間関係の再構築をおこなっていった。この頃から、笑顔に加え、笑い声やちょっとした発語が見られるようになってきた。更にそれから1ヶ月程度経過した際、職員からの問い掛けに対しての返答や他のご利用者様の言動に対して、「うるさい。あっち行け！」などの発語もみられるようになっていった。感情を引き出す事や様々な刺激を受ける事で発語が見られるのではないかと推測し、その後は色々な刺激を受ける環境をY様のストレスにならないよう気を配りながら整えていった。

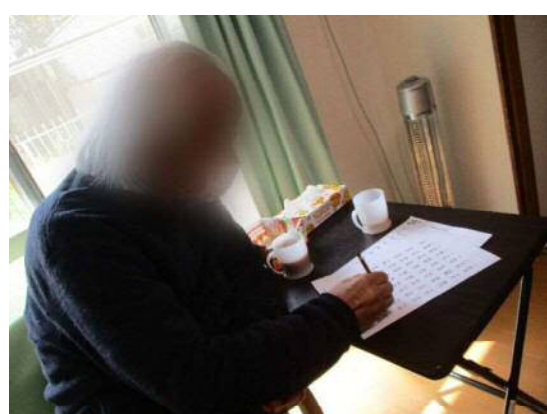
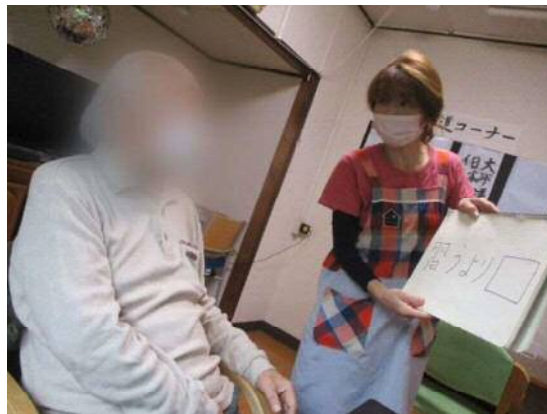
結果（達成したこと、達成時期）

Y様には他のご利用者様から少し離れた全体が見える場所に座って頂き、凄く気にされるご利用者様のみパーテーションを使い、視覚的に見えない様な配慮をおこなった上でこれまでのケアを継続した。興奮気味の際に机を叩かれたり、職員に対して手で「あっちへいけ！」と言いたいような仕草をされた時も気を遣って離れるのではなく、敢えてコミュニケーションを図ることでさらに信頼関係が構築されたと考えられ、徐々に机を叩くなどの行為は改善された。その結果、ご利用開始されてから約3ヵ月後頃から毎ご利用時、笑い声のみならず数回は発語がみられるようになった。決定的な要因が分からないが、キャッチボールを楽しんでからの諺クイズや地名クイズをおこなう事で発語がしやすい事にも気付いた。デイサービスご利用後、自宅では普段より発語が多いとご家族様から感謝のお言葉を頂けることも増えた。

達成後の課題・目標

毎ご利用時、発語がみられるようになったが、未だ決定的な要因が判明していない事。発語が見られた際のケアや様子を職員同士で共有し、根本となる要因に気付く事。ご家族様が言うには、脳が刺激、活性化されているのではないかとこのことで、Y様が心地よいと感じる部分を1つでも多く発見し、発語がみられる要因を探る。

※ 個人情報の取り扱いにご注意ください。



名古屋市要介護度等改善事例公表事業

改善・向上したこと

認知症利用者の家事への取り組みと気持ちの安定

事業所	サービス種別	認知症対応型通所介護
	事業所名	デイサービスらしく自由ヶ丘
	所在地	千種区自由ヶ丘1-7-1
利用者	65歳未満 ・ 65～70歳 ・ 70歳代 ・ 80歳代 ・ 90歳～	

取り組み

課題（取り組み前の時点）	認知症状である実行機能障害、失認、また精神機能の低下による不安感等によりご自宅でも趣味活動や家事などが思うように行えず、デイでのレクリエーションやリハビリに対しても拒否が強く、後ろ向きで楽しく参加する事ができない。		
本人の意向	引き続き自宅でいつまでも安全に生活したい		
長期目標	楽しく趣味活動やリハビリを継続していく事ができ、穏やかに安定した気持ちで生活する事ができる。	取組期間	2020年1月4日～2021年8月31日
短期目標	趣味活動やリハビリに対し前向きに取り組む事ができ、不安な気持ちが和らぐ	取組期間	2020年1月4日～2021年8月31日
関連する加算の算定状況	無し		

具体的な取り組み事例（期間、頻度、内容、主に担当した職種など）

私の姿と気持ちシート/ひもときシートを活用したカンファレンスを実施し、各職種からの視点での情報収集を行った結果、『記憶障害はあるが、家事などできていた頃の感覚記憶は残っており、現在の自分のできない姿を周りで見られたくないという気持ち（性格）が、挑戦する事を避ける行為に繋がっている』と推測し、課題の解決に向けて、援助者ではなく事例者ご本人中心の気持ちに沿ったケアを実施する事とした。

- ① 生活リハビリでは、食事準備のおかずの盛り付け作業と食後の食器拭きを継続して実施。その際、分りやすい説明を心掛け、一動作ずつできた事に対して一緒に喜ぶ事を繰り返し、まずは“できる”という事を心と体で感じて貰い自信を取り戻して頂く取り組み。
- ② レクリエーションでは、パズルや脳トレなどの個別レクは強制せず、グループレク時に競技に参加できずとも応援係や簡単な判定員など“できる役割”を担当してもらい、楽しい雰囲気の中に入れて頂く取り組み。
- ③ 穏やかな性格である事例者に対し、比較的年齢や性格の近いご利用者様とペアで過ごして頂く事で仲間意識を芽生えさせ気持ちの安定を図る取り組み。

結果（達成したこと、達成時期）

2 ヶ月程継続してきた生活リハビリのおかずの盛り付けや食器拭きは、簡単な説明のみで完結まで行える事ができるようになり、参加自体の強い拒否もなくなりました。この事が自信に繋がり、これまで思うように行えていなかったご自宅での家事に対し、『自ら食器の片付けや、ほうきでの掃き掃除等を自発的に行うようになった。着替えが上手になった』等、ご家族様から感謝のお言葉を頂いています。デイでも以前と比べ笑顔が増え、機能訓練やレクリエーションなど活動量が増えてきています。

達成後の課題・目標

精神機能の低下による不安感は依然として変わらない為、現在も些細な失敗で自信の喪失に繋がってしまっている事もあります。今後ご本人の気持ちに沿いながら“できるADL”と“現在しているADL”の差をできるだけ埋めていく事が課題です。

※ 個人情報の取り扱いにご注意ください。



